

目次

- ・ series わたしの仕事 (25) ㈱神戸製鋼所……稲崎未生 (pp. 2-6)
- ・ The car which I am still loving
(8) ユーノスロードスター 一人馬一体……加藤和雄 (pp. 7-9)
- ・ まだまだ元気・現役 (1) SONY IC-11……吉田英生 (p. 10)
- ・ S42 関東同期会……長崎 啓、藤川卓爾 (p. 11)
- ・ **COFFEE BREAK @Zoom** のご案内……米田奈生、清水桜子 (pp. 12-13)

わたしの仕事 (25) ㈱神戸製鋼所

稲崎未生 (H24/2012卒)



1. はじめに～自己紹介～

今回、ありがたいことに京機短信への寄稿のお話をいただきました。私の体験談で少しでも後進の方の参考になればと思い、緊張しながら筆を執っています。

簡単に私自身の自己紹介をさせていただきますと、私は京大生としては入学以前より成績優秀とは言い難く、浪人で入学した上に研究室配属前年に単位が足りずに留年となってしまった経歴を持っています。その後、木村先生、鈴木先生のナノ物性研究室を学部で卒業し、神戸製鋼所に入社して現在社会人8年目になります。

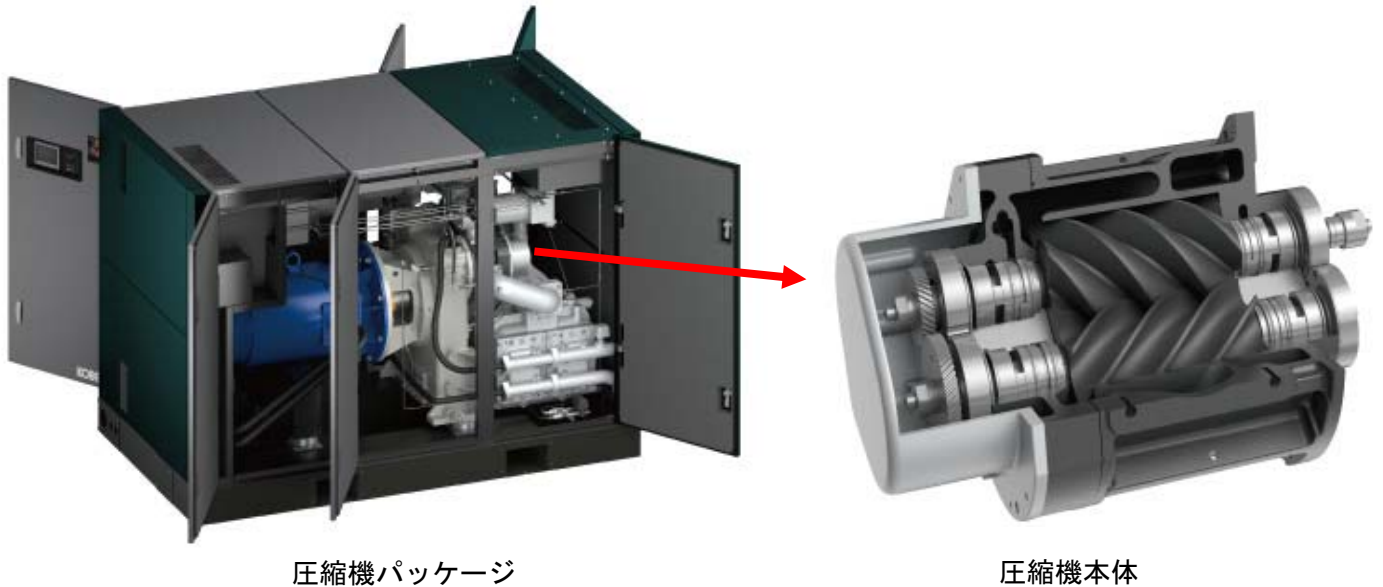
神戸製鋼所は、その名前が示す通りの素材系事業（鉄鋼、溶接、アルミ・銅事業部門）だけでなく、産業機械やプラントを主体とする機械系事業（機械、エンジニアリング事業部門）、電力事業などがあります。私は入社以来、機械事業部門で圧縮機の開発設計に携わってきました。

今回は、8年間携わってきた設計開発についてと、女性社員から見た男性多数の会社での働き方について、そして一浪一留からの就職について、私だからこそお伝えできるのではないかと思う内容を書いていきたいと思います。

2. 設計開発という仕事

私が開発設計に携わっている圧縮機（コンプレッサ）は、主に工場において圧縮空気を供給するためのものです。圧縮空気はお客様の工場内で商品を生産する

ための機械の駆動源として使われたり、エアーツールに使われたりします。圧縮機は、電気でいえば発電機に当たる産業機械で、工場に無くてはならない設備のひとつと言えます。私が関わっている機械は写真のようにパッケージ化されており、この中でも心臓部分である圧縮機本体の設計開発をしています。



(参考web; [Emeraude-ALE | KCC-KOBELCO / コベルコ・コンプレッサ](http://www.kobelco-comp.co.jp/products/oilfree/emeraudo-ale/index.html)
<http://www.kobelco-comp.co.jp/products/oilfree/emeraudo-ale/index.html>)

さて、機械の設計・開発という言葉聞いて、どのようなイメージが浮かぶでしょうか？設計の仕事としては、設計基準に照らし合わせて正しい知識と手順で計算し、加工部署や品質保証と打合せをして仔細を確定、図面化して試作して、形にするのが設計の仕事だと感じています。一方で開発は、技術開発と商品開発がありますが、突き詰めればどちらも新しい価値を創造することだと思います。商品開発の場合、世の中やお客様に求められているものを見極め、商品のコンセプトを決定し、技術を使って実現していきます。開発は大きな目線でのものづくり、設計はそれを実現するためのものづくり、私の部署においてはどちらも切り離せないものという印象です。



実際の開発の仕事では、進行方向を決める旗振り役となります。商品のコンセプトを決める段階では、営業・企画部署と相談しながら技術的な観点から実現可否の判断をしたりリリース時期を決定したりしていきます。開発がスタートすれば、各部署（設計、製造、生産管理、品質保証/管理、営業、サービス、海外工場）との連携や調整、依頼を行い、情報を集めて商品を実現できるように進めていくこととなります。思うように進捗が進まずスケジュールとにらめっこしたり、依頼した仕事が提出してもらえず督促したり、社内稟議を通すための資料を数日かけて作成したりします。開発における設計は、一つの部署・段階として、図面を作り試作をして検証する部分となります。設計開発なのでどちらも担うことになり、大変にも見えますが（実際大変なことも多いですが）チームで助け合いながら仕事を行うこと、そして実際に商品化されお客様先に出荷されていくことから、とても達成感のある仕事だと感じます。出荷される初号機を目の前にすると「大事に使ってもらえよ」と声に出してしまうほどです。

産業機械の場合、お客様も事業者であることがほとんどで、サービス・メンテナンスの比重も大きく重要な部分です。設計としてはメンテナンスが必要な部品やその期間を決定します。残念ながら使用中に不具合が発生した場合には、品質保証部署と共に調査をすることもあります。発売して終わりではなく使われている様子も実感でき、お客様で大事に使われているのを見ると嬉しいというのもやりがいのひとつです。

3. 働き方について

昨今、ダイバーシティ（多様性）の推進について、社会的に注目されています。私が入社した8年前はダイバーシティが言われ始めたばかりで、社内での推進活動として女性社員の交流会を始めたところでした。現在では女性社員だけでなく障がい者ワークショップや外国籍ワークショップなどが定期的に行われています。また、現在のコロナ禍が始まる前より在宅勤務も開始されています。会社の取組については以下リンクなどを参照いただければと思います。

（参考web; KOBELCOのダイバーシティ推進 | KOBELCO 神戸製鋼
https://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/outline/diversity/index.html）

私自身は女性ということがマイノリティであるという認識はなく、たくさんあ

る属性の中の一つ程度にしか感じていません。私の所属部署は女性社員の割合は1割ほどでうち正社員はさらに少ないです。数字としては圧倒的に少数派になりますが、入社してくる女性社員が少ないのが実情です。これまで働いてきた中で性別が理由で不利や不当に感じることはありませんでした。私のいる工場は神戸製鋼所内でも小さな工場で、工場初めての女性設計総合職が来ると噂になり、受け入れ側はおっかなびっくりだったようです。今では現場にも女性社員が見られ、設備面（主にトイレ）も改善が進んでいます。女性以外にも持病のある人や時短勤務の人、障がいを持っている人、外国籍、キャリア入社、現場から総合職へ転向した人など、実際の職場にはいろんな人がいます。困ったときに限らずお互いが少しずつ助け合いながら組織として仕事をしているので、性別がどうこうという印象は特に無いのです。

4. 落ちこぼれの就職活動と今

4回生の研究室配属のときに専門単位が不足し留年した私は「自分は勉学に向いていないので早く就職しよう」と思い立ち、留年中から就職活動を始めました。

重工や鉄鋼から自動車、工作機械など広く興味があり悩んでいたとき、就職担当の先生から「あなたは業界の最大手ではなくニッチな強さを持つ会社の方が向いている」という言葉をいただきました。実際、最大手ではなく技術的な独自製品を多く持つ神戸製鋼所に入社した私は学生時代の勉強では落ちこぼれだったにも関わらず、会社ではよい先輩たちに巡り合い圧縮機技術の中心に第一線で携わることができています。規模を求める戦いではなく技術に挑戦する場でこそ活躍できるとの先生の見立ては的確だったと思います。もし、就職で悩んでいる学生の方がいましたら、多くの学生を見てきた先生方に相談してみてください。自己分析や自分自身を客観視することは難しいことですが、相談して意見を聞くのはすぐできますのでおすすめです。

今になり設計開発をしていて学生時代にやっておけばよかったと思うことは、やはり勉強です。研究職でなければ大学の勉強は会社では使えないという人もいますが、実際は使わないだけだと先輩の一人が言っていました。留年しておいて書くのは恥ずかしいのですが、学生時代に不勉強だったからこそ、とことん勉強しておくべきだと身に染みて思います。今になって仕事で参考書を読み解きながら理解の壁にぶち当たる苦しみを味わっています。単位を落とした微分方程式や

触れてこなかった化学分野に唸りながら勉強をする日々です。

5. 終わりに

現在コロナ禍ということもあり社会全体が思うように進まない中ですが、学生の皆さんも勉学や就職活動において不自由を感じているかと思います。それでもできる限りチャンスを利用し、いろいろなものを見て、いろいろな人と会話して、たくさん勉強をして糧にしていただければと思います。無駄な経験というものは無く、活かすも殺すも自分次第です。前向きに取り組んでいってください。執筆に不慣れのため内容がばらついてしまいましたが、本稿が皆さんの一助になれば幸いです。